

萬福寺だより

第20号

HP <http://www.manpukuji.or.jp>

馬込から気持ちのよい風が吹いてくる

発行/曹洞宗 萬福寺護持会

2014年冬号/no.20/平成26年12月1日発行

「世界遺産『中尊寺』拝観と東北応援の旅」を終えて



1日目に訪れた「奇蹟の一本松」（陸前高田市）



一本松の説明を聞く参加者

山の土を市街地に運ぶベルトコンベアー。
右側に盛り土の一部が見える

せいたかあわだちそう
背高泡立草とススキの茂る旧市街地を前に

「復興への道まだ遠し」を実感

萬福寺護持会は、このほど37名が参加して世界遺産・中尊寺拝観と被災地応援を目的とした研修旅行（1泊2日）を開催しました。これまで護持会では、東日本大震災の支援活動をいろいろ行ってきましたが、早く現地の様子を知りたいという思いもあり、今回3年半がたつてようやく実現したものです。

10月7日の早朝、東京駅に集合した一行は東北幹線で岩手県一ノ関駅へ。ここで観光バスに乗り換え、最初の訪問地、世界遺産の天台宗東北大本山

尊寺を訪問、金色堂はじめ国宝・重要文化財を拝観しました。台風一過の青空のもと、中尊寺境内を、バスガイドさんが語る奥州藤原氏の悲劇の歴史を聞きながら散策、「月見坂」を下って中尊寺を後にしました。

平泉で昼食後、次に向かったのが陸前高田市の「奇蹟の一本松」です。一帯の陸中海岸国立公園には約7万本の松林がありましたが、津波によってなぎ倒され、唯一奇蹟的に残った陸前高田市の松を「奇蹟の一本松」と呼び、



2日目は松巖寺永井住職様から被災の様子を伺う。右奥の欄に見えるのは現在も身元の分からないご遺骨（石巻市）

復興のシンボルとなりました。しかし、震災から1年後、塩害によって根が腐り、枯死と判断されました。そのため全国から寄せられた「保存募金」を使って松に人工的な処理を加えてモニメントとして復活したものです。津波で破壊されたユースホステルとともに、津波の激しさを今に伝えていました。

「奇蹟の一本松」から目を旧市街地に向けると、山を切り崩した土を運ぶ巨大なベルトコンベアーが張りめぐらされ、さながら近未来の都市建設のような風景が広がっていました。防災対策として市街地全体をかさ上げする作業が進められ、一部では最大12mの高さに土が盛り立てられました。その高さを目の前にして「完成にはまだ時間がかかりそう」との声がもれてきました。

視察を終えて夕闇せまる南三陸町に入り、午後5時すぎに宿泊先の「南三陸ホテル観洋」に到着、温泉で一休みと息をつきました。

(2面へ続く)

感謝を込めてご先祖様、御本尊様にお参りしましょう。

12月14日・沐浴式、31日・除夜の鐘、正月1～3日・大般若会にお出かけください。

年明け2月11日(祝)は心安らぐ写経会へ——納経式も同時開催